

2013年(平成25年)度第5回常務理事会記録

日 時：平成25年9月21日(土) 13:00~16:00

場 所：東京医科歯科大学 MDタワー18階 小会議室

出席者：河田光博(理事長)、寺田純雄、仲嶋一範、藤本豊士、渡辺雅彦(以上常務理事)、竹田 扇、阪上洋行(以上常任幹事)、中村 聡(口腔保健協会)

I. 会議記録の確認

- (1) 2013年(平成25年)度第4回常務理事会(平成25年6月8日開催) 記録(案)
- (2) 2013年(平成25年)度第4回理事会(平成25年7月16-23日開催) 記録(案)

II. 報告事項

1. 庶務報告(渡辺庶務担当理事)

(1) 会員異動報告

平成25年6月分(入会者 正会員5名 学生2名、退会者 正会員 6名)

平成25年7月分(入会者 正会員1名、退会者 正会員 1名 学生1名 名誉会員2名)

平成25年8月分(入会者 正会員1名 学生1名、退会者 正会員 3名 学生1名 名誉会員1名)

逝去会員 5名

酒井琢朗氏(愛知学院大学名誉教授/名誉会員)平成17年11月14日逝去(享年75)

柴崎 晋氏(群馬大学名誉教授/名誉会員)平成25年7月2日逝去(享年82)

伊藤 司氏(福島県立医科大学元・学長/名誉会員)平成25年7月4日逝去(享年89)

山内昭二氏(大阪府立大学名誉教授/名誉会員)平成25年7月12日逝去(享年85)

嶋井和世氏(慶応大学名誉教授/名誉会員)平成25年8月26日逝去(享年94)

(2) 学会宛文書について

① 通知・依頼：一般社団法人日本輸血・細胞治療会より「理事長交代のお知らせ」の他61件の通知・依頼あり。

② 書籍・定期通信等：公益社団法人日本麻酔科学会より『Journal of Anesthesia Vol. 27 No. 3』他19件

(3) 一般社団法人への移行について

資料に基づいて一般社団法人への移行後に行う各種手続きの進捗状況に関して説明され、情報委員会で現在作業中の英文ホームページ作成以外のすべての手続きが完了したことが報告された。

(4) 男女共同参画学協会連絡委員会報告

資料に基づき平成25年6月26日に開催された男女共同参画学協会連絡会第4回運営委員会での議事内容と解剖学会における活動報告について説明された。

(5) 人体および人体標本を用いた医学・歯学の教育と研究における倫理的問題に関する提言について

資料に基づき文科省教育局から各国公私立大学医学部・歯学部への「人体及び人体標本を用いた医学・歯学の教育研究における倫理的問題点に関する提言について」に関する通知の説明があった。組織学実習標本の取り扱いに関して学会員の質問があったことが報告され、今後、教育・若手育成委員会に検討を依頼することとした。

(6) 従来の解剖学教室における臨床解剖学教育・研究といわゆるガイドライン(臨床医学の教育及び研究における死体解剖のガイドライン)における外科手術手技研修の相違点について

資料に基づいて説明があり、外科学会に対して日本外科学会に解剖学雑誌(88巻4号)での掲載に関して通知したこと、次回解剖学会総会での合同シンポジウムの抄録を送付する予定であること説明された。

(7) その他

特になし

2. 編集報告(藤本編集担当理事)

(1) 解剖学雑誌及びASI刊行報告

資料に基づき平成25年9月1日に『解剖学雑誌 88巻4号』と『Anatomical Science International Vol. 88 No. 4』が発送されたことが報告された。

(2) その他

特になし

3. 企画・渉外報告(仲嶋企画・渉外担当理事)

(1) 平成25年度一級技術士資格試験について

資料の基づき説明があり、本年度応募者がなかったため、平成26年度に鶴見大学歯学部を会場として実施することとした。

(2) 2013(平成25)年度総会・全国学術集会準備状況について

資料に基づき大会準備の進行状況が説明された。シニアクラブの位置づけやシニア会員の参加登録費の設定方法などは、学会として正式に決めたものではなく今後検討の必要があるが、当面、各大会の会頭の判断に委ねることとした。

(3) 2017(平成29)年度総会・全国学術集会担当校について

資料に基づき2017(平成29)年度総会・全国学術集会開催希望の現在の届け出状況と締め切り期日(平成25年9月30日)が説明された。

(4) 生物科学学会連合報告

資料に基づき説明があり、日本版NIH構想に対する共同声明を発表したことが報告された。また、高校生物学教科書の語句、記載、和訳の標準化を進めるためにワーキンググループを立ち上げることになり、解剖学会からは竹田扇先生(山梨大)を委員として推薦したことが報告された。さらに、生物学分野のポストク問題に対してワーキンググループを立ち上げる見込みであることが報告された。

(5) 日本脳科学関連学会連合報告

資料に基づいて活動内容に関する説明があった。また、精神科関連5学会と、日本神経学会からそれぞれ発表された、精神・神経疾患克服に向けた研究推進の提言について、脳科連として支持する声明を発表したことが報告された。その際、基礎研究の推進と基礎・臨床の連携が重要であることにも言及されたことが説明された。

(6) 日本医学会報告、第29回日本医学会総会報告

資料に基づき日本医学会法人化に関する説明があり、会費負担の増加に対する基礎医学系学会への配慮が検討されていることが報告された。また、日本医学会基礎部会・社会部会合同会議(平成25年10月3日開催)に仲嶋理事が出席予定であることが報告された。

(7) その他

藤本理事より解剖学会で提出した大型研究計画の採択に関して、次回解剖学会総会で報告する予定であることが説明された。

4. 会計報告(寺田会計担当理事)

(1) 平成25年度中間決算書について

資料に基づいて予算執行状況の説明があった。現時点で執行率の高い項目として、法人化移行に伴う修正作業などのためのホームページ運営費(執行率142.45%)が指摘された。

(2) 支部学術集会決算について

資料に基づき関東支部第23回懇話会の会計報告が説明された。

5. その他

河田理事長より配布資料に基づき、第117回～第121回の全国学術集会会頭による解剖学会小委員会(平成25年7月8日開催、於 京都府立医大)の報告があり、過去の大会の反省点や改良すべき点などを記録し、今後の解剖学会総会の運営に役立てる方針が説明された。また、今後の解剖学会の方向性として、若手研究者育成、医学・歯学部以外のコメディカルとの協調、他学会との連携の重要性などが述べられた。

III. 審議事項

1. 新入会員の承認について(庶務)

資料に基づいて説明があり、全員異議なく承認された。

2. 教授就任による代議員審査について(庶務)

資料に基づいて説明があり、2名が承認された。

3. 科研費応募について(編集)

藤本理事より、「国際情報発信強化」に対する取り組みに関する本年度の日本学術振興会の科学研究費補助金への公募を見送ることが提案された。また、渡辺理事(前年度編集担当)より、昨年度公募の見送った経緯が追加説明された。河田理事長より、公募のためにASIのシステムの大幅な変更の必要性や助成期間終了後の予算対応の難しさなどから本年度も見送る方針が示され承認された。藤本理事より、出版社との関係の維持や向上のために、ASIのSpringer社との契約更新時に条件面などについて話し合う場を持つことの必要性が指摘された。

4. 全国学術集会終了後における抄録集の扱いについて(事務局)

口腔保健協会で中村氏より団体会員からの全国学術集会終了後における抄録集の扱いに関して、学会事務局が抄録集の一部保管(15部程度)と販売に関して一元化することが提案され了承された。

5. 技術士法第57条抵触問題における技術士制度改正について(渉外)

仲嶋理事より資料に基づいて、技術士法第57条への抵触に対する技術士制度改正に関する今後のスケジュールの説明があった。また、「技術士」から「技能士」の名称変更、一般社団法人への移行に伴う、免許状、功労賞感謝状、功労賞メダル等の対応について述べられ、免許状のサイズはA3からA4に見直す提案がなされた。また、免許状や感謝状の再作成に伴う経費に関しては、来年度予算措置で対応することで了承された。今後、免許状や感謝状で公印に変わるロゴマークの考案に関して会員から意見を募ることが決められた。

6. 平成25年度第5回理事会、ならびに臨時社員総会における議事進行の確認について(理事長)

資料に基づき口腔保健協会中村氏から平成25年度臨時社員総会の開催の日時、会場、議案が説明されて了承され確定した。また、第5回理事会メール会議の議題が説明された。議題7の「東レ科学技術研究助成応募者への推薦と学会推薦のルールについて」に関しては、今回は応募者に対する審査承認をメール会議で行い、今後の議論は、より一般性を持たせた「研究助成金の応募の学会推薦のルール」について行うことが提案されて承

認された。また、臨時社員総会の議長に関しては塩田氏（昭和大・医）を理事会メール会議で提案することとした。また、臨時社員総会には寺田、仲嶋理事が参加する予定であることが報告された。

7. 委員会主催の全国学術集会におけるワークショップ、シンポジウムへの開催補助について（庶務）
資料に基づき、学会からの補助に関する申し合わせ、募集、審査とその結果報告、事後報告に関する日程が説明された。シンポジウムの採択時期と連動させた募集や審査日程を今後さらに検討することとした。
8. 常任幹事交替について（理事長）
資料に基づき、竹田常任幹事から松崎利行氏（群馬大・医）への常任幹事交替と交替時期が承認された。
9. 雑誌「学術の動向」について（会計）
資料に基づき、日本学術協力財団の発行する雑誌『学術の動向』について説明があった。常務理事会メール会議での検討の結果、学術団体としての最も基盤的な組織の一員としての証になりうると判断から、購読の継続が了承された。
10. 女性の意見が反映されやすい理事会構成について（理事長）
資料に基づき本学会の現状と他学会の状況が説明されて、様々な可能性について検討した。今後、さらにメール会議で審議し、12月理事会での審議の方向で進めることとした。
11. 口腔保健協会Web会員情報管理システム「OHASYS（オハシス）」導入について（事務局）
口腔保健協会中村氏より資料に基づき、本年9月より運用開始したWeb会員情報管理システムOHASYSについて説明され、導入について基本的に問題ないことより了承された。
12. 東レ科学技術研究助成の候補者推薦に関して（庶務）
資料に基づき東レ科学技術研究助成の候補者推薦に対する対応について説明がなされた。学会助成金の推薦には理事会承認が最終的に必要であるが、前段階の審査として、研究助成の推薦候補者の審査については奨励賞選考委員会への委託、賞に関する学会推薦候補者については理事会メール会議で審議する方向でさらに検討することとし、本年度は理事会で個別に対応することとした。
13. 協賛の在り方について（庶務）
資料の基づき後援・協賛状況が説明され、協賛基準の明確化の必要性が述べられた。基本的に本学会や形態学との関係などの視点から庶務担当渡辺理事が判断し、必要に応じて常務理事会での判断をメール審議にかけることが提案されて承認された。
14. 常務理事会・理事会日程の確認（庶務）
常務理事会・理事会の日程（日時：2013年12月7日（土） 場所：八重洲ダイビルの会議室 時間：常務理事会：11：00－13：30、理事会：14：00－16：30）が確認された。また、10月開催の理事会メール会議、11月30日の臨時代議委員会の開催について確認された。
15. その他
 - (1) 河田理事長より、人体標本の取り扱いに関するワーキンググループの立ち上げを検討していることが報告された。
 - (2) 河田理事長より国際解剖学連合(IFAA)とAnatomische Gesellschaft (AG)との交流に関して、国際性の観点から解剖学会の今後の方向性を決めて行くことが説明された。また、AGのFriedrich Paulsen教授 (Universität Erlangen-Nürnberg)、イギリス解剖学会のCeri Davies教授 (Imperial College London)との意見交換に関して報告された。